銀座山の会2018年度決算報告

会計担当　桑原秀司

1. 期初残高
* 期初の現金は28円、預金は1,446,264円の計1,446,292円であった。
* この内訳は一般会計（会運営に係る会計）の前期繰越金は306,292円、遭難対策基金（事故が発生した場合の一時支出に備えた基金）は1,000,000円、労山基金（労山基金の精算金として前年度に預かった金額）は140,000円であった。
1. 収入
2. 一般会計
* 会費は6,000円×30名＝180,000円＋途中入会者3名11,500円＝191,500円であった。尚3月から入会者が1名発生したので500円の会費が発生するが現金主義のため、来期の収入とする。

予算は174,000円であったので17,500円の増収となった。

* 入会金は新入会員2名の2,000円の収入があった。

予算はゼロなので2,000円の増収となった。

* 受取利息は12円であった。
* その他の収入は基金還元金（労山基金からの払戻）が2,900円、今井家からの謝金85,000円と法要車代40,000円、偲ぶ会会費97,500円、「山岳同人わたぐも」様からの花代3,000円の計228,400円であった。

予算はゼロなので228,400円の増収であった。

1. 装備会計
* 装備購入は購入する品により変動が激しいため、今期から一定額を一般会計から引当て、特別会計とすることとした。
* 初年度はこれまでの一般会計剰余金との兼ね合いで70,000円を引当てることとした。
1. 安全対策基金
* 今井家から寄贈された500,000円については、会の安全対策に使わせて頂くこととし、特別会計とした。
1. 遭難対策基金
* 2010年度に決議された1,000,000円が確保されているため引当ては行わなかった。
1. 労山基金
* 継続者5,000円×29名＝145,000円＋4月移籍者継続2,500円＋11月加入者3,000円の計150,500円を預かった。
1. 支出
2. 一般会計
* 会場費：19,260円

例会は13回行われたがほぼ予算通りとなった。

* 連盟費：78,000円

都連盟費は予算通り。（前年11月末会員数報告により決定される）

区連盟費は予算18,000円を計上していたが、区連盟方針により徴収は見送られた。

* 会報費：0円

会報は休刊のため支出はなかった。

* ＨＰ費：10,789円

サイト使用料6,480円、ドメイン更新料4,309円（3年分前払い）

* 装備移送費：4,568円

予算は10,000円計上したが実績は3件4,568円に留まった。

* 訓練費：280円

搬出訓練資料コピー代のみ。

* 交流費：0円

予算は20,000円計上したが使われなかった。

* 雑費；410円

振込手数料280円、例会資料コピー代140円のみ。

* 装備会計繰入

装備会計初年度のため、過去の剰余金を勘案し70,000円を引当てた。

* 遭対基金繰入

基準額に達しているため引当ては行わなかった。

* 予備費；414,495円

今井氏遭難に対し、9/3上野原交通費2名5,776円、9/13今井家手伝い交通費他4名10,637円、10/14四十九日法要ご仏前50,000円＋交通費2名他35,978円＝85,978円、12/15偲ぶ会205,144円、追悼文集106,960円

※対応して今井家謝金・車代125,000円＋偲ぶ会会費・花代100,500円＝225,500円の収入があるため、実質188,995円の費用となる。（「今井遭難明細」参照）

1. 装備会計：26,038円
* 予算50,000円にザイル購入21,546円、テント修繕4,492円の計26,038円の支出となった。
1. 安全対策基金払出：0円
* 本年度対応する支出はなかった。
1. 遭難対策基金払出：0円
* 今井氏の事故に際し捜索費用が発生したが、遺族が支払ったため支出はなかった。

※今回の捜索費用は労山基金から給付されるので、会として払ったとしても費用としては発生しない。

1. 労山基金：142,500円
* 前年度預り金140,000円から移籍者に返金5,000円した残の135,000円に、4月移籍受入れ分2,500円の計137,500円を精算した。
* 支出額としては返金5,000円＋精算金137,500円の142,500円となる。
1. 期末残高
* 期末の残高は現金95,358円、預金1,727,006円の計1.822,364円となった。
* この内訳は一般会計（会運営に係る会計）の次期繰越金130,402円、装備会計の次期繰越金43,962円、安全対策基金500,000円、遭難対策基金（事故が発生した場合の一時支出に備えた基金）1,000,000円、労山基金（労山基金の精算金として前年度に預かった金額）148,000円である。
1. まとめ
* 本年度は装備費について金額の増減に備えるため、特別会計として一般会計から分離した。
* 今井氏の遭難事故に対して、臨時費用（収支差引188,995円）の費用を計上したが、過去の繰越剰余金で賄った。
* 一方、今井家から会に役立てて欲しいとのことで寄付金500,000円を頂いたため、これを今後会として事故を起こさぬために使わせて頂くこととし、安全対策基金とした。